

# シーボルト記念館だより No.86

## Siebold Memorial Museum Journal

### 企画展「シーボルトとオタクサ」4月19日（金）～6月9日（日）

シーボルトは、日本のアジサイを愛し、熱心に収集し研究しました。その花の一つを、愛する女性「おたきさん」にちなんで「オタクサ」と名づけたことでも有名です。帰国後、『日本植物誌』を刊行し、さまざまな種類のアジサイを紹介し、世界に広めました。本展では、『日本植物誌』をはじめ、シーボルトと植物にゆかりの資料等を展示します。

#### 【主な展示予定資料】

シーボルト妻子像螺鈿合子（複製）、「あじさい属日本植物原稿」（復刻本）、シーボルト他『日本植物誌』第1巻・第2巻（初版本）他

### 開館30周年記念特別展「種痘伝来ーシーボルトとその門人たちー」

10月4日（金）～11月10日（日）

シーボルト記念館開館30周年及び、1849年にオランダ商館医モーニッケにより牛痘苗がもたらされてから170周年を記念して特別展を開催します。

シーボルトの種痘（牛痘法）導入の試みや長崎の医師・吉雄幸載や榎林栄建・宗建兄弟との交流を中心に、牛痘法の普及に奔走した日高涼台、伊東玄朴、伊東昇迪らシーボルト門下生の活動を紹介します

#### 【主な展示予定資料】

キヨソネ筆シーボルト肖像画、日高涼台「種痘新書」（清書本）、「NIPPON」（初版本）、伊東昇迪旧蔵眼科手術器具他



川原慶賀筆シーボルト肖像画（複製）

### 常設展年間展示・没後150年「楠本たきの生涯」（7～12月）

平成31年（2019）は、楠本たきの没後150年にあたることから、激動の時代を生きた一人の女性の「波瀾あり曲折ある生涯」（古賀十二郎）を紹介します。

【主な展示予定資料】 楠本たき肖像画、たき書状（複製）、たき写真他

※なお、名称・期間等は変更となることがあります。

## 『鳴滝紀要』第29号を発刊しました。

研究誌『鳴滝紀要』の最新刊（A4判、124ページ）をこのほど発行しました。

定価は1冊1,500円。記念館で販売しているほか、郵便でも受け付けております（その場合は送料が別途300円かかります）。バックナンバー第7号～（8・9・25号売切れ、7・26号はあとわずか）もございます。くわしくは記念館までお問い合わせください。

＜主な内容と著者＞（敬称略、なお肩書は執筆時のものです）

- ・泉屋家旧蔵「オランダ語文法書」と志筑忠雄「助詞考」  
大島明秀（熊本県立大学准教授）
- ・男爵アレクサンダー・フォン・シーボルト「古き日本に関する回想 第2部—  
—英国の旗の下に 1862年～1870年—」（2）  
堅田智子（上智大学文学部特別研究員）
- ・1830年12月、帰国したシーボルトへ其扇が送った最初の手紙  
アーフケ・ファン＝エーヴァイク（ライデン大学大学院）
- ・史料紹介 伊東昇迪「寄陽日簿」—翻刻及び註解—  
藤本健太郎（長崎市長崎学研究所学芸員）、織田毅（シーボルト記念館）
- ・特別展報告 高島秋帆の周辺—系譜と晩年の活動を中心に—  
織田毅（シーボルト記念館）
- ・平成30年利用状況・事業報告・職員名簿

## 元シーボルト記念館長の福井英俊氏が死去されました。

本館の館長をつとめられた福井英俊氏が、去る平成31年1月11日に死去されました。72歳でした。福井氏は、大学ご卒業後中学校で教鞭をとられ、長崎市教育委員会在籍中には記念館設立準備に尽力。記念館開館後も主査・館長（平成4～5年度）として中心的な役割を果たされました。平成3年にはブランデンシュタイン＝ツェッペリン家所蔵文書を撮影するなどの業績を残されています。その後、長崎市立滑石中学校長もつとめるなど教育界でも活躍されました。

主な論文としては、「楠本・米山家資料にみる楠本いねの足跡」（『鳴滝紀要』創刊号、平成3年）、「ブランデンシュタイン＝ツェッペリン家資料にみる『日本』出版の過程と其扇・いね宛シーボルト書簡」（『鳴滝紀要』第2号、平成4年）のほか、共著として『シーボルトのみたニッポン』（平成6年）等があります。特に「楠本・米山家資料にみる楠本いねの足跡」は、一次史料に基づき楠本いねの生涯を論じた論文として評価が高く、別刷冊子として頒布され現在まで広く読まれています（平成26年第3版発行）。

福井氏の多大な業績をしのび、ご冥福を心よりお祈りいたします。

平成31年（2019）4月1日発行 シーボルト記念館

〒850-0011 長崎市鳴滝 2-7-40 TEL 095-823-0707

FAX 095-823-0170 E-mail siebold@city.nagasaki.lg.jp